社会教育実習支援ネットワークの展望



全国社会教育職員養成研究連絡協議会(社養協) 社会教育実習支援ネットワークWG事務局長 出川 真也

はじめに

大学における社会教育研究者の特徴・素質と役割について 考えること(月刊社会教育2019年5月号掲載予定出川原稿から)

【特徴】

- ①アカデミズム的でない側面 社会の現象的動向から離れて純粋に学問的立場をとる、 ということはない
- ②アカデミズム的な側面

理念と理想の追求において、現実の政治経済的圧力と妥協しない批判的精神態度を固く保持

社会教育実習の本質的要素!

【素質】

- ①現場と学生の双方の力になろうとする
- ②現場や学生とのかかわりを通じて自分自身も成長発達していこうとする
- ③常に自身の研究・教育・実践の方法と技術を磨き続ける
- ④決して絶望しない

社会教育実習の本質的要素!

【役割】

人々の学びに関する研究・教育・実践活動を通じて、大学と現実社会を架橋し、その変革に携わることを専門とする社会活動(変革)家

社会教育実習の本質的要素!

実はもともと日常業務そのものが「実習」

1.社会教育実習の意義とネットワークの必要性

【社会教育実習の意義】

- ・ 学生の学びの充実化
- 大学と実践現場が正課カリキュラムによってつながる場。 相互に影響関係を深めることで、研究・教育・実践を変革 していく機会
- 多様な分野への社会教育(「社会教育士」)の認知度向上 と波及展開



一大学一教員一施設では、遂行能力や負担感の面で懸念

参考: 過年度の社養協調査による社会教育実習数等の推計値 項目 概数 備考

■全国養成校(2018年現在)	177	
■全国養成人数/年	1,800	文科省社会教育課試算より推計
■社会教育実習授業設定校(推 定)	85	2012社会教育実習実態調査を参考にした推計値
→新課程移行後	170	85校増 ※必修化による
■社会教育実習受講者数(推 定)	900(300)	()内は都内及び近郊 全国に占める養成校数より推計
→新課程移行後	1,800(600)	900(300)人増 ※必修化による
■新規実習施設·活動及び活用 先等の創出		
1)新分野実習先創出の必要数	<u>400(130)</u>	1施設・活動あたり2.25人受入で算出
2)継続的協力先創出の必要数	600(200)	安定的実習を確保する協力施設1.5施

3)養成人材活用先の新規創出

の必要数

設/1実習施設

1,000(330) 展開率を目標に設定

実習先から2.5倍程度の活用先波及

【ネットワーク形成の必要性】

必修化を機に、 社会教育実践の現場(実習先)と養成の現場(大学)双方で 益々そのニーズは高まっている

- ①連携協働によるリソースの有効活用
- ②現場実践と大学教育・研究を相乗的に高め、社会教育の伸張・活性化に寄与する実習の推進が求められる



2.社会教育実習支援ネットワークの基本機能

多様な学びを架橋する社会教育人材養成の高度化と実習先の活性化



① マッチング・研修

- ●養成校 実習先のマッチング・調整支援。
- 担当者研修の企画・√提供√

②モデル提供・実践

- 多様な実習モデルプロ・ グラムの提供・実践。
- 「マッチングフェス』夕(仮称)」等イベントの企画・実施。

③研究・開発』

- 事例研究による実習方法の研究・開発√
- ・データ研究によるアセスメント (評価) の研究開発。

①マッチング・研修

①教育委員会事務局	社会教育行政に関わる人材育成·学習実践 活動等
②教育委員会事務局以外の 行政組織	環境、福祉、産業振興、まちづくり等における 学習・人材育成業務等
③社会教育·生涯学習·福祉 施設等	公民館・公民館類似施設、女性教育施設、青 少年教育施設、社会体育施設、児童館等の 教育業務
④学校等教育機関	放課後子ども教室、地域未来塾、地域学校協 働本部等の地域学校協働活動
⑤NPO・ボランティア団体	個別の活動団体·組織の他中間支援組織等 における人材育成·学習実践活動
⑥企業•事業体	企業CSRや地域連携事業、社会教育施設指定 管理業務等における人材育成·学習実践活動
⑦その他	①~⑥を組み合わせた連携活動等

②モデル提供・実践

AL (Active Learning)

・ 少人数ディスカッション法を中心とした教室内 での学習など

SL (Service-Learning)

・実習先・学生の双方の互恵を志向し、実習先 への貢献と学生の学びの実現を企図した参 加・体験活動など

PBL (Project Based Learning)

・ 実習先や研究室と共に、社会教育現場における具体的プロジェクトを企画立案し実施することを通じた学習実践など

PAR (Participatory Action Research)

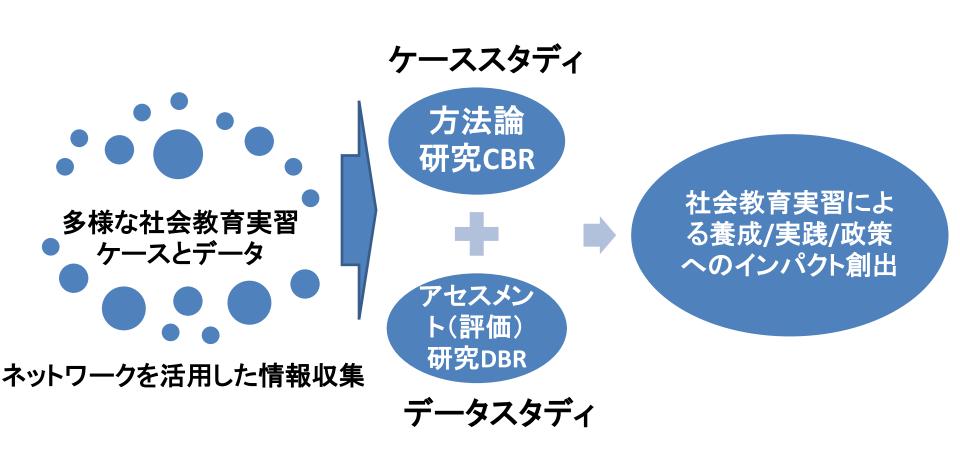
・参加型研究。課外研究や実習後などに、関係性を構築した施設や団体の活動に参加しながら行う研究調査活動など

③研究・開発

【社会教育実習と研究・教育・実践のPDCAサイクル】

研究 ※図は基本イメージ。FD/SD • カリキュラ 活動を通じて引き続き検討を していく予定。 ム方法論 研究 CBR ネットワーク による情報共 有支援 検証 実施 • アセスメン • 社会教育 ト(評価) 実習 研究 **DBR**

【ネットワークを活用したケースとデータを基盤とする社会 教育実習研究の新たな地平】



3.ウェブサイトとデータベースの構築・提供

「社会教育実習支援ネットワーク」サイト

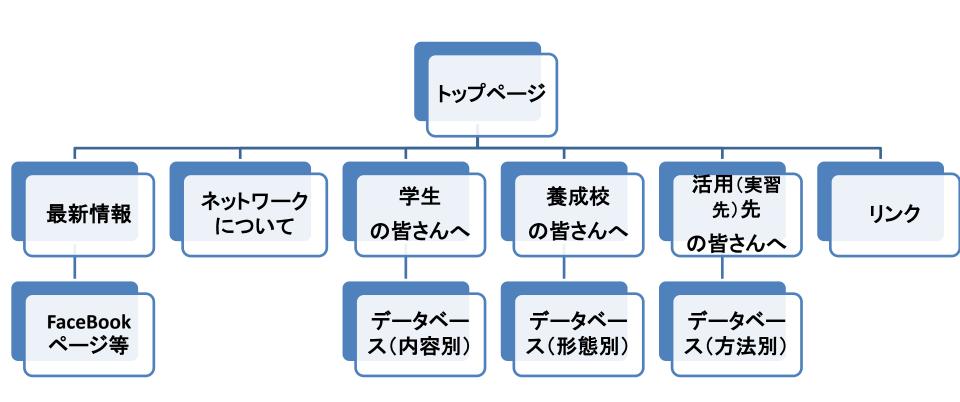
https://sites.google.com/view/shazissyunet



①学生向け :内容別整理

②養成校向け: 形態別整理

③実習先向け:方法別整理



4.期待される効果について

- 現場実践と大学教育/研究の相乗的活性化
- ・ 実習先及び活用(就職)先の開拓推進



地域社会における社会教育の波及展開と活性化 養成校の社会貢献力の向上

5.今後の視点と検討事項

- ①マッチングとPBLへの展開・応用
- 実習先・活用先ニーズ・学生ニーズ(および教員ニーズ)のマッチング、受入先との協働プロジェクト等への活用促進等
- ②リスクマネジメント(安全管理・ハラスメント防止等)対策 新規参入の実習先等の多様な分野拡大への対応等
- ③研修プログラムの開発/提供 協働のための実習/活用先・養成校間の相互研修活動の構築等
- ④アセスメント(評価)方法の研究開発 実習先・活用先・地域・学生・教員の成果の可視化等

おわりに ネットワークに参加するには

・ 社養協にご加入ください 機関会員・個人会員

社養協ホームページでは、 研究会の案内や報告、社会 教育主事養成制度の見直し に関する情報などを随時更 新して掲載しています

